

COPY

正



(3,000)

実用新案登録願(2)続記号なし

昭和 52. 4. 18 日

特許庁長官 片 山 石 郎 殿

1. 考案の名称

ヘッドホン

2. 考 案 者

住 所 ヤオシキタキョウカウジ
大阪府八尾市北久宝寺1丁目4番33号
ホシデンキセイソウ
星電器製造株式会社内
氏 名 モリ ナガ ケン イチ
森 永 健 一

3. 実用新案登録出願人

住 所 ヤオシキタキョウカウジ
大阪府八尾市北久宝寺1丁目4番33号
ホシデンキセイソウ
名 称 星電器製造株式会社
代表者 古 橋 了

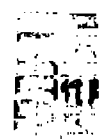
4. 代 理 人

住 所 大阪市北区神山村64番地 梅田辰巳ビル
〒 530 電話 06 (312) 0187
氏 名 弁理士 (7233) 鈴 江 孝 一 (ほか1名)

5. 添付書類の目録

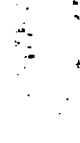
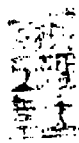
(1)	明 細 書	1	通
(2)	図 面	1	通
(3)	委 任 状	1	通
(4)	願 書 副 本	1	通
(5)	審査請求書	1	通

方式
審 査



82 049406

53-143627



明 細 書

1. 考案の名称

ヘッドホン

2. 実用新案登録請求の範囲

互にスライド自在に接合すべきヘッドバンドとスライダの曲率を異ならせるとともにその各接合面に節度用の凹凸係合部を設け、かつそのヘッドバンドおよびスライダにそれぞれスリットを穿設するとともに、上記ヘッドバンドおよびスライダの各端部にそれぞれ相手方の非接合面に係接させる舌片をスリットを通るくびれ部を介して突設し、少なくとも上記ヘッドバンドあるいはスライダのスリットの一方の端部に上記舌片の挿通を許容する巾広部を設けることによって上記ヘッドバンドとスライダを、その各舌片を相手方の非接合面に相手方のスリットを通して係接させ互にスライド自在、かつ弾性的な接合状態に組立るとともに、上記ヘッドバンドをその全長に亘って被り袋状カバーの端部を上記ヘッドカバーの舌片部に取付ける取着ピン

(1)

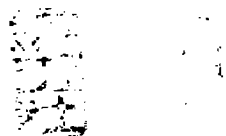
53-143627

を上記スライダのスリットに挿入することによってそのスライダ書を規制し、そのスライダのスライドによって上記スリットの巾広部に舌片が通しないようにしたことを特徴とするヘッドホン。

3. 考案の詳細な説明

この考案はヘッドバンドの端部にスライダを介してスピーカを取着するようにしたヘッドホンに關するものである。

従来、この種のヘッドホンにおけるヘッドバンドとスライダの取付構造は、たとえば、第1図に示すように、透孔12, 12を設けたヘッドバンド11と長手方向にスリット14を設けた板状のスライダ13とを重ね合せるとともに、上記透孔12, 12およびスリット14にガイドピン15およびボルト16をそれぞれ挿通させてこのスライダ13をスライド自在にガイドし、上記ボルト16に螺合した袋ナット17を締めつけて上記スライダ13にいわゆるスライド圧を発生させるようにしている。ところが、このような構成のものは比較



的部品点数が多く組み立てがめんどろであり、また組み立て後の上記ヘッドバンド1とスライダ3との重ね部分が比較的厚みがあるため使い勝手が悪く、しかも、ナットの締付度合によりスライド圧が変化するので均一な性能の製品を得難いという問題がある。

この考案はこのような事情に對目してなされたもので、部品点数が少なく組み立てが簡単であり、またヘッドバンドとスライダの重ね部分を薄型にかつ軽量にすることができ、しかも、スライド圧の揃った均一な製品を得ることが容易であり、さらにその使用に際してはスライダのスライド調節を確実かつ感触よく行なうことができるヘッドホンを提供するものである。

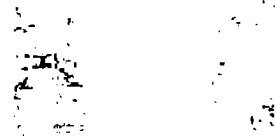
以下、この考案の一実施例を図面を参照して説明する。

図中1はヘッドバンド、2はスライダ、3は上記ヘッドバンド1をその全長に亘って被りカバー、4は上記スライダ2の端部に懸架されたスピーカである。

上記ヘッドバンド1は、金属板を打抜き曲げ加工して得た半円弧状のもので、その端部にはスライダ接合面1e側へ屈曲したくびれ部1aを介して舌片1bが一体に設けられているとともに、その端部から中央部方向に細長なスリット1cが穿設されており、さらに、そのスリット1cの終端部、つまりヘッドバンド1の中央部寄りの端部にこのスリット1cよりも巾広な巾広部1dが穿設されている。一方、上記スライダ2は、金属板を打抜き曲げ加工して得た、上記ヘッドバンド1よりも小さな曲率半径を有する細長な彎曲板で、その一端部にはその接合面2e側へ屈曲したくびれ部2aを介して舌片2bが一体に設けられているとともに、その一端部から他端部にかけて、細長なスリット2cが穿設されている。なお上記くびれ部2aの巾寸法は上記ヘッドバンド1のスリット1cの巾寸法よりも小さく、また舌片2bの巾寸法は上記ヘッドバンド1の巾広部1dの巾寸法とスリット1cの巾寸法との中間寸法に、さらに上記スリット2cの巾寸法は上記ヘッドバ

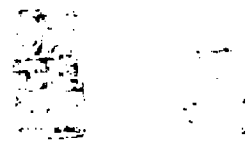


ンド1の舌片1bの巾寸法とスリット1cの巾寸法との中間寸法にそれぞれ設定されている。そして、このスライダ2を上記ヘッドバンド1に組み付ける順序は、まず、第4図(A)に示すように上記ヘッドバンド1の舌片1bを上記スライダ2の接合面2e側からそのスリット2c内に、干渉しない姿勢で、つまり上記舌片1bの厚み方向が上記スリット2cの巾方向に略一致するような姿勢で挿入し、上記舌片1bがスライダ2の非接合面側に突出したところで、つまり、ヘッドバンド1のくびれ部1aが上記スリット2c内に位置したところでこのヘッドバンド1を所要角度捻り戻し、第4図(B)あるいは第5図に鎖線で示すような姿勢にする。すなわち、この姿勢とは、上記ヘッドバンド1の舌片1bが上記スライダ2のスリット2cの非接合面側縁部にスライド可能に係接した姿勢である。なお、図ではスライダ2を上限位置、つまりくびれ部2aが上記スリット1cの端縁部に当接する位置までスライドさせた状態を示している。次いで、このような状態から



上記スライダ2をその接合面2eが上記ヘッドバンド1の接合面1eに密着する方向へ傾動させることにより、その一端に設けた舌片2bが上記ヘッドバンド1の巾広部1dを通過してこのヘッドバンド1の非接合面側に位置するようにする。この状態を第5図に2点鎖線で示す。しかる後このスライダ2を第5図に実線で示すように下方向へスライドさせて、このスライダ2の舌片2bを上記ヘッドバンド1のスリット1cの非接合面1eに係接させることにより、このスライダ2の上記ヘッドバンド1への組み付けが終了する。なお、組み付け後においてはこのスライダ2と上記ヘッドバンド1の両接合面1e、2eは両者1、2の曲率の違いにより互いに弾性的に圧着されており、この両接合面1e、2eに節慶用の凹凸係合部5を設け、上記スライダ2のスライド動作を節慶的行なわせるようにしている。上記凹凸係合部5は、上記ヘッドバンド1の接合面1eにバンド長手方向に所定の間隔をあけて設けた複数の係合凹所5aと、上記スライダ2の接合

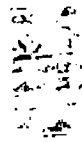
面2eに設けられ、上記係合凹所5aと係合する係合突起5bとからなるもので、この係合突起5bおよび係合凹所5aは共にスライダ2およびヘッドバンド1の各製作時に金型によりそれぞれ一体に形成されるものである。一方、上記カバー3は、皮革等を袋状に形成したもので上記ヘッドバンド1の全部と上記スライダ2のヘッドバンド1との重合部分とを被覆するものであり、その両端部は上記ヘッドバンド1の舌片1bに固定されている。すなわち、上記舌片1bの中央部、つまり上記スライダ2のスリット2cに対向する部位にピン孔6を穿設するとともに、上記カバー4の上記ピン孔6に対応する部位に取付孔7を穿設し、この取付孔7およびピン孔6に取着ピン8を挿通し、この取着ピン8の頭部に形成した鑄部と上記舌片1bとで上記カバー4の取付孔7の周縁部を挟着固定するようにしている。また、この取着ピン8の胴部は上記スライダ2のスリット2cを貫通して接合面2e側に突出しており、この突出部にピン抜け止め用のOリング



10を装着している。そして、上記スライダ2を上方向へスライド移動させた時に、このスライダ2のスリット2cの下端縁部が上記取着ピン8に当接してそのスライド移動が規制され、このスライダ2の舌片2bが上記ヘッドバンド1の巾広部1dに達するのが禁止されるようになっている。換言すれば、この取着ピン8によって、上記スライダ2が組立て順序を逆に辿って第5図に鎖線で示すような状態になる。つまりヘッドバンド1から外れてしまうのを防止するようにしている。一方上記スピーカ4は周知な構成のもので、U形金具9を介して上記スライダ2の各下端部にそれぞれ取着されている。

このような構成のものであれば、従来のものと同様の操作でスライダ2をスライド移動させて、ヘッドバンド部の長さを自由に調節することができるのは勿論であり、しかも、ヘッドバンド1とスライダ2とを、上述したようにそれぞれに一体に設けた舌片1b,2bとスリット1c,2cとを互いに係合させ合うことにより連結

するようになっているので部品点数が少なく組み立てが簡単であり、また、ヘッドバンドとスライダとの重合せ部分をねじ等で締付けるようにしたもの比べはるかにその部分を薄型に、かつ軽量化にすることができるものである。また、スライダのスライド圧は、ヘッドバンド1とスライダ2の曲率によって決まるので、上記ヘッドバンド1およびスライダ2を金型等でそれぞれ設定された正確な寸法形状に成形しさえすれば、組み上がり品のスライド圧にばらつきが生じることなく、均一な製品を得ることができる。また、上記ヘッドバンド1とスライダ2の接合面に凹凸係合部5を設けているので、上記スライダ2のスライド調節を確実にかつ感触よく行なうことができる。さらに、ヘッドバンド1の舌片1bに取着ピン8を取着し、このストッパーピン8に、カバー3を固定する機能と、上記スライダ2がヘッドバンド1から外れるのを防止する機能とを同時に持たせるようにしているので、この点においても部品点数の削減化および



組立ての簡略化が促進されるものである。

なお、凹凸係合部は前記構成のものに限らず他のものでもよいのは勿論であり、たとえば、ヘッドバンド側に係合突起を設けるとともにスライダ側に係合凹所を設けたようなものでもよい。また、その係合突起および係合凹所の形状も前記のようなものに限らず他のものでもよくたとえば、係合凹所をローレット状の溝にし係合突起をそれに係合する突条にしてもよい。

4. 図面の簡単な説明

第1図は従来例を示す斜視図、第2図はこの考案の一実施例を示す斜視図、第3図は同実施例の要部を示す斜視図、第4図(A)(B)、第5図は同実施例の組立順序を説明するための説明図、第6図は同実施例の要部を示す断面図である。

- | | |
|-------------|------------|
| 1 …… ヘッドバンド | 1a …… くびれ部 |
| 1b …… 舌片 | 1c …… スリット |
| 1d …… 巾広部 | 2 …… スライダ |
| 2a …… くびれ部 | 2b …… 舌片 |
| 2c …… スリット | 3 …… カバー |



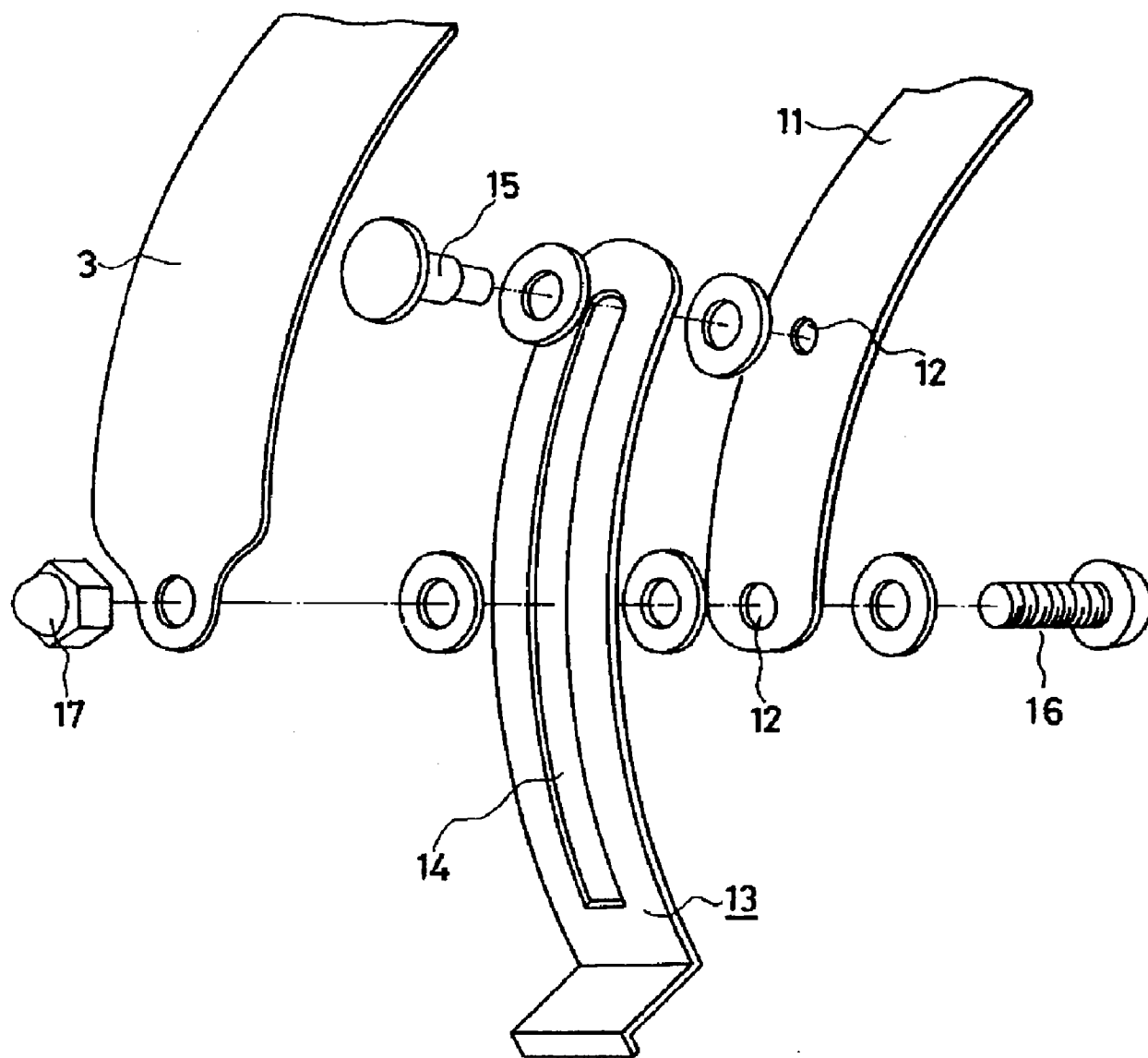
5凹凸係合部

8取替ピン

出 願 人 星 電 器 製 造 株 式 会 社

代 理 人 弁 理 士 鈴 江 孝 一

第 1 図

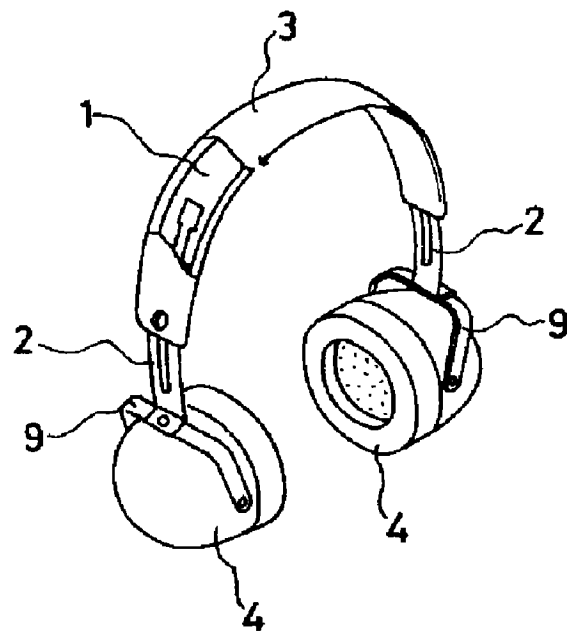


出願人 星 電器製造株式会社

1436

代理人 弁理士 錦江孝一

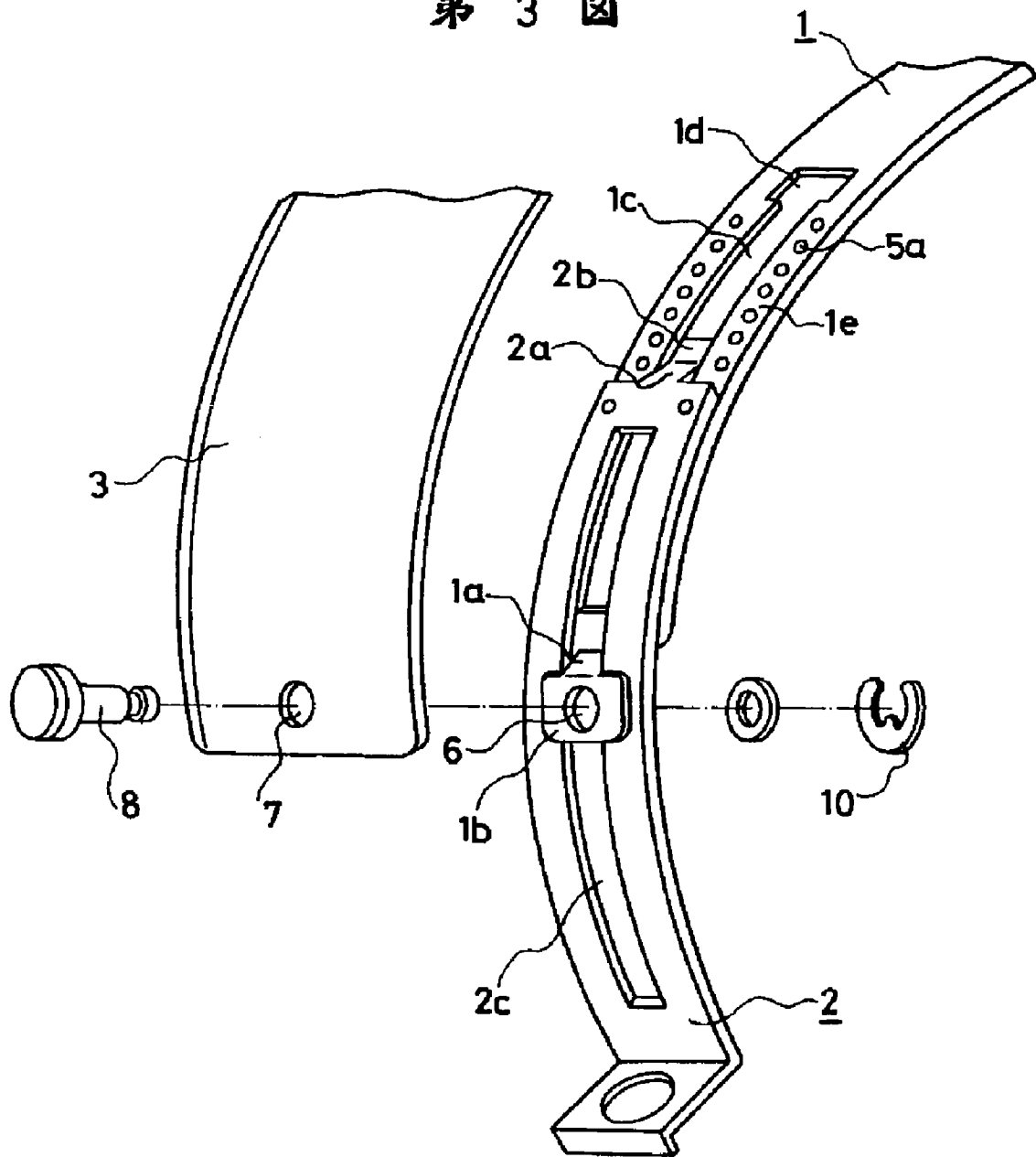
第 2 図



出願人 星 電器製造株式会社

代理人 弁理士 錦江孝一

第 3 図

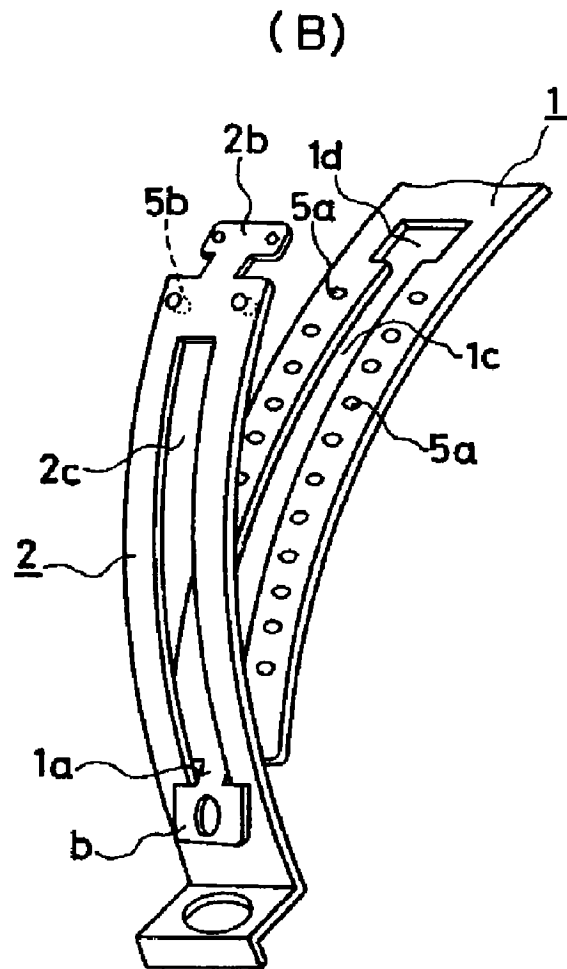
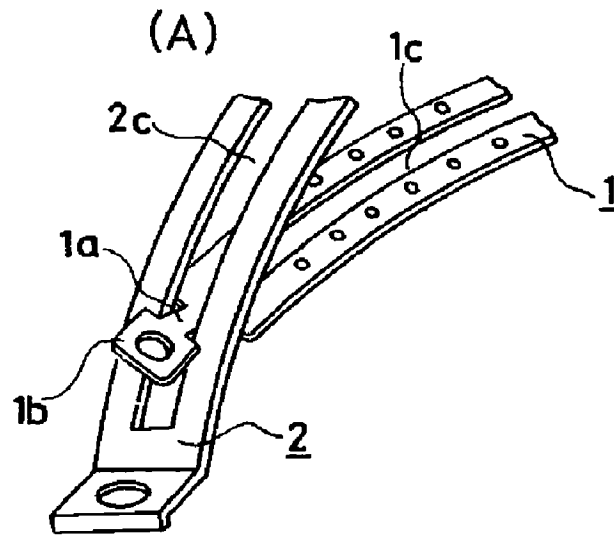


出願人 星電器製造株式会社

143627 3/5

代理人 弁理士 錦江幸一

第 4 図

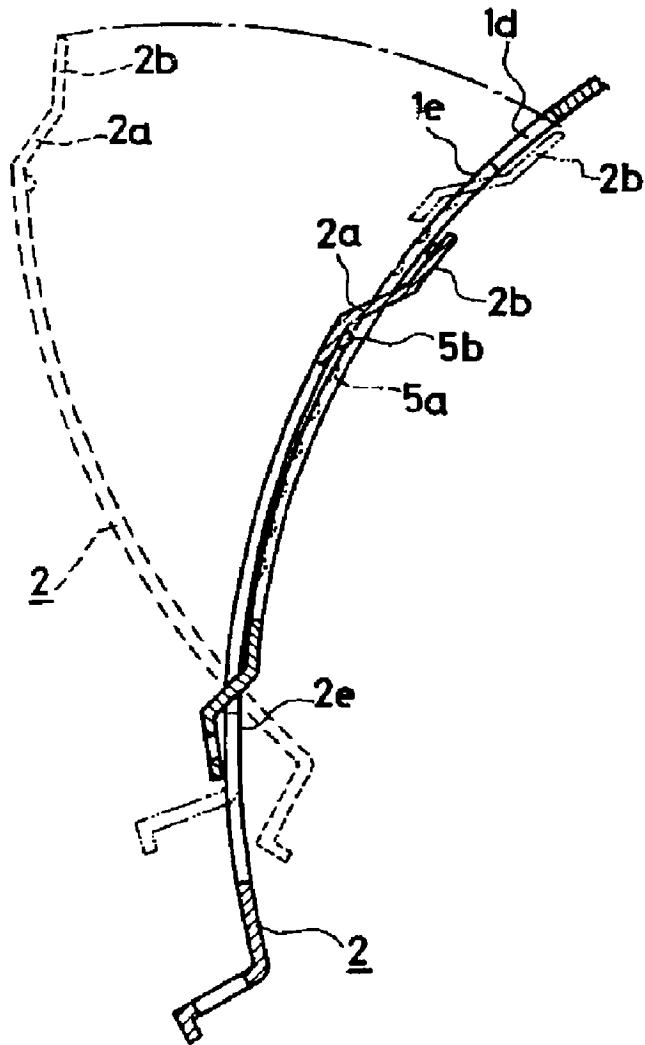


143827 4/5

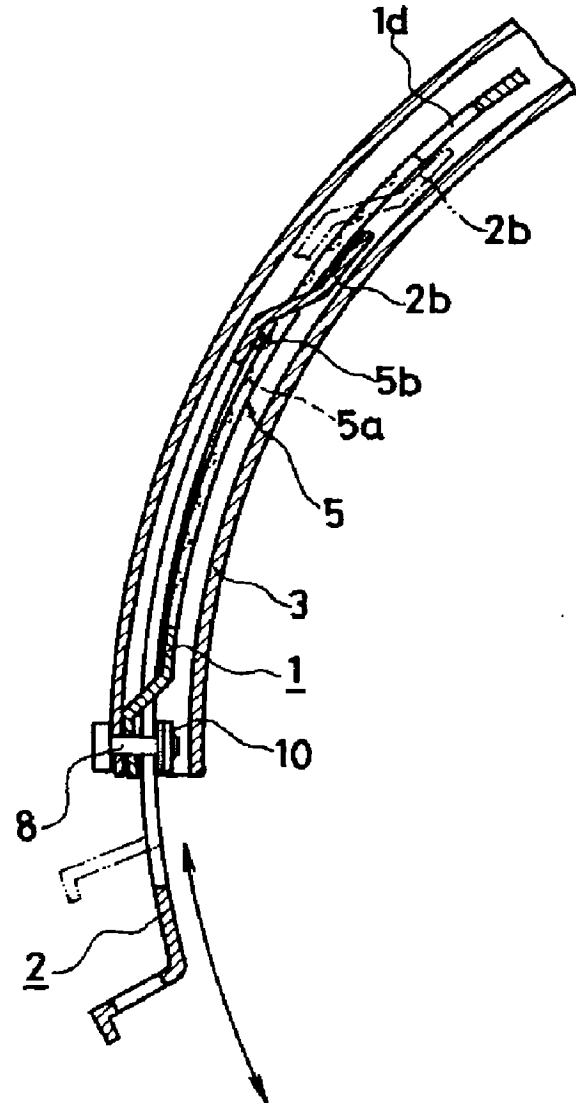
出願人 星 電器製造株式会社

代理人 弁理士 錦江孝一

第 5 図



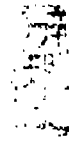
第 6 図



143627

出願人 屋 電器製造株式会社

代理人 弁理士 錦江孝一



6. 前記以外の発明者、考案者、出願人、または代理人

(1) 発 明 者
考 案 者

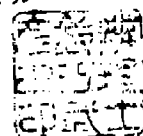
(2) 特許出願人
実用新案登録出願人

(3) 代 理 人

住 所 東京都港区芝西久保桜川町 2 番地 第17森ビル

〒 105 電 話 03 (502) 3 1 8 1

氏 名 弁 理 士 (5847) 鈴 江 武 彦



53-143627